

校 園 名：信州大学教育学部附属長野小学校

所在地：〒381-0016

電話番号：026-251-3350

記載日：28年5月16日

記載者：田中 和幸

記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

<教育理念> 「子どもを内から育てる」

<学校目標> 「共に在る」

- <児童会目標> ○ 花咲き 鳥歌う学校  
○ 明るい言葉の 響き合う学校  
○ ものの命を たつとぶ学校

貴校の卒業生の活躍状況について：

① 追跡調査をしているかどうか、また、その方法

特に追跡調査をするようなことはしていません。

② どの程度、把握できているか、また、その情報はどこが持っているか（大学、学校園、その他）

③ 状況を具体的にお書きください

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

① 追跡調査をしているかどうか、また、その方法

特に追跡調査をするようなことはしていません。

② どの程度、把握できているか、また、その情報はどこが持っているか（大学、学校園、その他）

③ 状況を具体的にお書きください

公立学校に於いては、研究主任、教務主任など、学校のみドルリーダーとして中核的な役割を担ったり、教頭、校長などの管理職に就いて、学校を経営する立場に就いたりしています。また、教育委員会における指導主事や主幹指導主事などに就き、各学校の授業指導や管理指導に当たる者もいます。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：【いくつかの事例を記載いただいても構いません。大学や地域との連携、PTA や外部人材の活用、その取り組みがある一定のスパンのもとに実施されているか（前後の授業や活動などと、どのようにリンクしているか）、地域（公立学校など）へ還元されているかなどについても、わかりやすく記載してください】

<学部教員との共同研究>

毎年4月に教育学部で行われる学部・附属共同研究連絡協議会を皮切りに、教育学部教員と附属教員が連携して研究を進めています。学校現場を経験したことのある者を中心とした教育学部教員

は、自らの専門領域を臨床的に検証・理論化して研究成果を更新していきます。一方附属教員は、日々の実践に欠かせない教材開発のアイデアや専門理論等授業づくりの基盤を学術的に蓄えていきます。こうした関係性を背景に、研究授業の前後のみならず、日常的に学部や本校を行き来して情報交換したり議論したりする姿が日常的になってきています。

#### <公開教材研究会>

毎年秋に行う公開授業研究会（初等教育研究会）における公開教科の研究の歩みを、「公開教材研究会」と銘打って郡内の小中学校全校に案内するとともに、ホームページにも情報を載せて広く門戸を開いています。授業の核となる教材・提示資料の妥当性を検討したり、新たな視点から教材の価値や授業展開について議論する場となっています。昨年度は、遠くは滋賀県や京都府からも参加者がありました。もちろん、この場にも学部教員は共同研究者という立場で参加しています。

#### <教職大学院>

平成28年度春より教育学部に教職大学院が設置されました。

#### 【信州大学教育学部 教職大学院の特色】

##### 1 「教職基板コース」「高度教職開発コース」の設置

###### (1) 教職基板コース（初年度6名）

新しい時代に対応できる新人教員育成を目指すコース。高度教職開発コースの院生と友に共同で問題解決を図る演習に参加する。（教育学部卒業直後の学生を対象。）

###### (2) 高度教職開発コース（初年度15名）

学校改革・授業改善の中核を担う教員養成を目指すコース。学校現場における実践的課題に焦点を当て、その課題解決のために他の院生や勤務校の教職員からなるチームで取り組む演習を中心に据えて研修する。

##### 2 学校拠点方式の採用 \*本校も拠点校として選定されている。

学校現場をフィールドとし、実習を中核としながら具体状況に応じた指導のあり方や実践の省察を深化させることを重視する方式をとる。大学における講義・演習に加えて、フィールドワークや拠点校における実習及びチーム演習を実施する。

1(2)のうち、本校に在籍する院生が3名おり（いずれも学級担任）、毎週1回程度、本校で夕刻から行われるチーム演習では、院生の省察に基づく実践発表を各自の視点から問い合い、よりよい授業づくりのための、さらにはより質の高い教師となるための議論が重層的に行われています。ここでの学びが校内の教員に与える影響は計り知れないものになると確信しています。

また、本校が拠点校になったことに伴う人的配置、具体的には、本校に在籍する院生を中心に支援しながら自らの研究を深める大学職員（実務家教員）が、教職大学院と本校とのパイプ役となり、双方の良さを双方に発信して学部—本校との連携をより緊密なものにしているとともに、本校の授業実践力の向上に大きく貢献しています。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：（一般論ではなく、できるだけ、具体的な状況が理解できるように記載してください）

### ○地域の未来のリーダーを育成する学校

授業参観をされた地域の皆様から、「子どもが活動に熱中している。体を通して学ぶ風土がある。」  
「子ども相互の関わり合いが密接で、学び合う学習集団になっている。」  
「低学年を中心に生き物との生活が日常化しており、『命』に向き合う学びが充実している。」  
「子どもと先生が創り上げる知的好奇心に満ちた授業が楽しい。」等の声が寄せられています。本校には、今後迫り来る不透明な時代を逞しく、しなやかに生きていく礎を築き、地域の未来のリーダーを育成する役割が期待されています。

### ○教師の在り方を共に考える学校

公開参観日、公開教材研究会を中心に、地域周辺のみならず県外からも多くの先生方が来校されます。「これほど胸襟を開いて議論する研究会は初めてです。」  
「子どもの学びを『真の学び』とするための教師のあり方を語り合う研究会。素晴らしいと思います。」といった声が寄せられています。本校には、教育の本質を問い合い、教師の資質を向上させる役割が期待されています。

**附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：（現在、この国では少子化の中、少し広域に見るとミッションの重なる教員養成系大学、教育実習の場、教育研究校が存在し、そのような中、教員養成数の削減、そのための場の削減、ひいては附属学校の存在意義までが議論されています。そのような現実の中、一般論ではなく、できるだけ、貴校の実績にもとづいて、この国に附属学校が、この国および地域に貴校が、必要であることをアピールしてください）**

（上記「地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか」の記述に加えて）

### ○長野県教育をけん引する教員養成の役目を果たす学校

「長野小の底力を見せてもらった。」とは、本校から転勤した赴任先の校長先生の言葉です。授業改善がなかなか進まない学校、生徒指導がままならない学校、ミドルリーダー不足に悩む学校…  
「信州教育の源流」と称される本校から転任した教師は、県下各地の諸所課題を抱える学校に赴任しても、本校で本質的な学びや教師としての在り方を同僚とともに問い合った姿そのままに、赴任先の学校のために、そして、何よりも目の前のその子のために、新たな同僚と手を携えて労を惜しまず歩み続ける姿が評価されています。また、教育委員会等行政に赴いて活躍することも期待されています。